

「かえるのエルタ」

中川李枝子作

鈴木直美

今月から新しくこの欄がはじまり、その第一回をこうして書かせていただいたける光栄といえはあまりに光栄な、でも私にとってとはとても困った事態になって……本当に困っています。きつとこれから

は、りっぱな先生方が良い書評を書いてくださるでしょうから、今月号は、新しいこの欄を紹介させていただく気楽なブローグとして読んでいただきたいと思います。

その前に、このたいへん困ってベンをとった私ですが、私は、昨年四月に幼稚園に「入園」したばかりのシンマイ先生です。

同じく四月に入園した三年保育の子どもたちといっしょに、新しいことにひとつひとつ驚いたり感激したりしながら、

あわただしくも楽しい毎日を過ごしています。おかげで、わが子たちはこのつたない先生をまるで恋人のように慕ってくれ、幼稚園が楽しくてしかたがない満足気な顔で遊んでいてくれます。

一方では、日々のいくつかずつのつまづきを「あーあ」とためいきまじりに悔い、もつともつと勉強しなくては、と思いながらも、毎日毎日子どもたちと走りたり暴れたりしてあんまり本などは読まない不勉強な私……。

元来、絵本、童話、マンガ、小説は人並みの読書をしてきても、それ以上は卒論の時に「しかたなく」読んだむずかしい本がいくつかあるくらいの本当に不勉強者なのです。（こんな自慢するように強調するのではなく、小さくなって反省しなくてはいけないことでしょうね）

「幼児の教育」ですら毎月一冊ずつこ
なすのがたいへんな私が、こんな欄を書
くなんて、どうも編集の誤りのような気
がしてなりません。

前置きが長すぎてしまいました。さ
てこんな私ですので、ここで書かせてい
ただきたいのは、やさしい楽しいすてき
なお話、中川李枝子さんの「かえるのエ
ルタ」という童話です。「ぐりとぐら」
や「いやいやえん」等々、中川李枝子さ
んの数々のお話は、ほんとうに子どもら
しい楽しさがあふれていて、私が大好き
な本ばかりです。その中のひとつの「か
えるのエルタ」は何も私がここで書かず
とも読んでいただければわかるし、もう
すでにお読みになった方も多いと思いま
す。

かんたくんが拾ったかえるのエルタが
同じかえるのドレミちゃんと結婚式をあ
げるまでのお話ですね。その過程のひと
つひとつの会話が何ともいえず子どもら
しくてかわいくて、お話の展開の飛躍が
アツと思う楽しさ……かえるのエルタ
が、はじめはおもちゃだったのに突然歌
をうたい出し、かんたくんをその名も愉
快な「うたえみどりのしま」に連れてい
ってくれるお話です。

途中でおとなりのくみこちゃんやら、
くみこちゃんのお友だちだった、まるで
そこいらにいる女の子のようなかえるの
ドレミちゃん、指輪を三つのはめたかえ
るの王さま、トランプが大好きで、すぐ
「食べちゃうぞお」と驚かすけれどとて
もやさしいライオンの「らいおんみど
り」くん……子どもってこんなふうに住

分の世界を広げていくのだろうな、とわ
かり、お話の世界なのに不思議と現実く
さくて、おとなでも抵抗なく楽しめま
す。

子どもは限らない夢を持っているし、
大きな可能性をあふれさせているのです
もの、それをおとなが決して阻んではい
けないと思います。保育者として子ども
といっしょに夢を育てたいし、より広
く、よりのびやかな心を持っていきたい
から、そんな私にこの童話の世界がとて
も大切に思えます。子どもに接するもの
として、子どもが楽しめる本と同じよう
に楽しめる心をいつまでも持っていたい
私の愛読書、ご紹介というより、勝手に
小さなつぶやきを書かせていただきまし
た。